

令和6年9月秋田市議会定例会一般質問者順序

自	民	党	工	藤	潤	平	
秋	水	会	細	川	信	二	
フロンティア秋田			藤	枝	隆	博	
公	明	党	佐	藤	佳	人	
そうせいと維新			藤	井		翼	
共	産	党	奈	良	順	子	
自	民	党	安	井	正	浩	
秋	水	会	見	上	万	里	子
フロンティア秋田			工	藤	新	一	

1 市長の政治姿勢について

(1) 秋田市を含む地方では、人口減少が深刻化し、それに伴う財政逼迫という課題に直面しているが、市長として、次の総理大臣や新内閣にどのような政策を期待しているのか

(2) 次期市長選挙に対する思いはどうか

(3) 新スタジアム整備について

ア 現時点において、整備候補地やスタジアムの規模、整備開始の時期やスケジュールについて、どのように考えているのか

イ 整備手法については、PFI方式を含む公設による事業スキームなども検討しているとのことであるが、具体的にどのような整備手法があるのか、また、それぞれのメリット及びデメリットをどのように捉えているのか

ウ 建設地が八橋運動公園内となった場合、健康広場及び第2球技場の代替地の整備が必要となるが、その候補地選定の基準や整備スケジュールはどうか、また、市民やスポーツ団体からの意見はどのように反映されるのか

(4) 外旭川地区まちづくりについて、新スタジアムをモデル地区以外に整備する場合、事業パートナーとの関係を含め、今後のまちづくりはどうか、また、基本計画で掲げた経済波及効果などは達成できるのか

2 新たな財源確保の取組について

(1) 宿泊税の導入に向けた検討状況はどのような段階にあるのか

3 水害対策について

(1) 特定都市河川制度について

ア 旧雄物川流域が特定都市河川流域に指定された後、同流域内においては、新たな開発に伴う雨水浸透阻害行為に対して、対策工事及

び市長の許可が必要となるなど、市民や事業者へ新たな負担が増える場合があるが、理解を得るためにどのような周知を行っているのか

イ 新たな規制や負担に対し、本市独自の支援策は検討しているのか

(2) 昨年の豪雨災害を受け、秋田駅東地区に整備が検討されている雨水貯留施設の設置場所や規模について、現在どのような計画を立てているのか、また、整備によって期待される効果はどうか

4 所有者不明土地及び空き家対策について

(1) 本市における所有者不明土地や空き家の現状について、市としてどのように把握しているのか、また、これらの問題に対してどのように取り組んでいるのか

(2) 相続土地国庫帰属制度について、市民への制度の周知や理解促進のために、市としても情報発信が必要と考えるがどうか

5 再生可能エネルギーの啓発と普及促進について

(1) 本市は洋上風力発電をはじめとする再生可能エネルギーの産地であるが、そのメリットを市民が実感できるような取組を進めるべきではないか

(2) 秋田港における洋上風力発電が市内経済にもたらす効果をどう捉えているのか、また、今後、秋田市沖での洋上風力発電をどのように展開していくのか

(3) ペロブスカイト太陽電池について

ア 本市はペロブスカイト太陽電池をどのように評価しているのか

イ 今後、普及拡大が見込まれるペロブスカイト太陽電池を市の公共施設に導入するとともに、事業所や住宅への導入に対する補助制度を創設する考えはないか

6 子どもや若者が主人公のまちづくりについて

(1) 子どもや若者の居場所づくり、遊び場づくりについて、どのように

考えているのか、また、子どもの自主性を尊重する冒険遊び場（プレーパーク）を整備してはどうか

7 持続可能な公共交通の在り方について

- (1) バスやタクシーの運転手不足の解消に向け本市も取り組んでいるが、今後どのような施策を講じる予定なのか
- (2) 路線の維持や再編に向けた方針として、MaaSなどの新しい手法について、市としてどのような展望を持っているのか
- (3) 日本版ライドシェアについて、どのように考えているのか、また、導入した場合に、本市の公共交通に与える影響や課題、期待される効果についてはどうか

8 誰一人取り残さないデジタル化の推進について

- (1) 本市の高齢化の現状に目を向け、使われないデジタル化ではなく、誰もが受け入れやすく、誰一人取り残さないデジタル化の推進が必要と考えるがどうか

9 地域の諸課題について

- (1) 松枯れ被害に対する本市の対応状況はどうか、また、国や県など関係団体との連携を強化し、抜本的な対策に取り組む考えはないか
- (2) 新屋地区における安全安心なまちづくりについて
 - ア 防犯カメラの設置や街灯の整備といった防犯対策の強化が必要ではないか
 - イ 児童生徒及び学生の防犯意識向上のための講習会の開催や秋田県警との連携による見守りの強化を図ってはどうか
- (3) 大森山動物園における餌の販売について、餌をカプセルトイに入れて販売することで来園者への新たな体験価値を提供し、施設の魅力向上につなげる考えはないか

1 市長公約について

(1) 公共交通について

ア 泉外旭川駅開業により、公共交通網を充実させるとしているが、奥羽本線秋田・追分駅間の利用者及び路線バスの便数が減少していること、さらには、長らく1日平均乗車人数県内2位であった土崎駅が3位に後退したことについて、どう捉えているのか

イ 市内各駅及び路線バスの利用者増加に向け、市として、今後、どのような取組を行っていくのか

(2) 企業誘致について

ア 市長就任時からこれまでの実績はどうか、また、誘致企業における従業員の将来計画の達成状況はどうか

(3) 放課後児童クラブについて

ア いまだに、施設ごとの保育料にばらつきがあることから、均一かつ低額で利用できるよう、助成の拡充を図るべきではないか

2 八橋運動公園内への新スタジアム整備等について

(1) 整備候補地について、令和6年6月定例会での説明と閉会後の記者会見での市長発言に相違があった理由は何か

(2) 同公園内への整備について、当初は、施設の機能や公園の利便性が損なわれるとして不適としていたが、一転して同公園内の施設利用率の低下などを理由に整備候補地とするには無理がないか

(3) 同公園内における運動施設の敷地面積の基準は、都市公園法及び秋田市都市公園の設置に関する基準等を定める条例により50%以内と定められているが、同公園内に整備することについて、支障はないのか

(4) 近隣住民が抱える同公園内の環境が大きく変わることへの不安や、騒音問題等について、市としてどのように対応していくのか

(5) 第2球技場等の代替地の整備に係る費用をどのくらいと見込んでいるのか、また、勝平市民グラウンドを代替地とした場合、これまで積

み重ねてきた同公園のエリアイメージを欠くことになると思うがどうか

(6) 外旭川地区ではなく、同公園内に整備するのであれば、本市主導で協議を進めるのではなく、縣市連携で行うべきではないか

(7) 市民及び市議会の理解をより深めるためにも、県やブラウブリッツ秋田等との協議内容について、丁寧に説明すべきと考えるがどうか

(8) 同公園内への整備について、外旭川地区まちづくり事業パートナーであるイオンタウン株式会社からは、どのような意見があったのか

3 外旭川地区まちづくりについて

(1) 記者会見において、市長が事業パートナーであるイオンタウン株式会社の撤退の可能性について言及した真意は何か

(2) 同地区まちづくりから新スタジアム整備を切り離すのであれば、事業パートナー選定プロポーザルを実施した意味がなくなるのではないか

(3) 新スタジアム、卸売市場及び民間施設の三位一体の整備ができなくなることにより、同地区において、官民連携による将来を見据えたまちづくりのモデル地区整備が困難となることから、一旦白紙に戻すべきと考えるがどうか

4 子育てが楽しい秋田市であるために

(1) 子育て環境の充実を図る観点から、クアドーム「ザ・ブーン」の改修を優先的に行うべきと考えるがどうか

(2) 防災機能を有し、かつ遊具も充実した日常から遊べる都市公園を増やすべきと考えるがどうか

(3) 少子化が加速する中、今後の保育所等の施設の適正について、どう考えているのか

(4) 障がい児保育を実施している保育所等に対し、保育士等が一对一で向き合えるよう、支援の拡充を図るべきではないか

(5) 災害で保育所等が被災した場合の代替施設について、あらかじめ本

市の責任で決定しておくべきと考えるがどうか

(6) 各小学校区の見守りボランティアの方々を、市の記念日式典で表彰してはどうか

5 芸術文化の振興について

(1) 芸術文化ゾーンの明確なビジョンを示すべきではないか

(2) 本市では、仕事と子育ての両立支援等に取り組む企業を「秋田市元気な子どものまちづくり企業」として認定していることから、芸術文化の振興に寄与している企業に対しても同様に、認定してはどうか

(3) 長年にわたり、地域の文化の振興に寄与している商業者を、市の記念日式典で表彰してはどうか

6 地域の諸課題について

(1) 秋田港周辺は、階段つきの岸壁の損傷などによる景観の悪化が目立ち、観光の側面から大きなマイナスとなっていることから、解決に向け、本市が積極的に取り組む考えはないか

(2) 市民団体が毎年主催している土崎空襲犠牲者追悼平和祈念式典を、戦没者追悼式・平和祈念式典と合同で8月14日に土崎地区で実施する考えはないか

(3) 秋田港周辺における津波対策について

ア 寺内地区の工場集積地域との意見交換の実施状況及び同地域における避難計画の策定状況はどうか

イ 旧秋田臨海鉄道株式会社の跡地に、クルーズ列車の秋田港駅を併設した新スタジアムを整備してはどうか

1 外旭川地区のまちづくりについて

(1) 来年の市長選挙の争点となり得る同地区のまちづくりを一旦棚上げし、選挙における市民の声を聴くべきではないか

(2) 新スタジアムを八橋運動公園内に整備する場合の同地区のまちづくりについて

ア 外旭川地区まちづくり基本計画において掲げた経済効果、雇用創出、交流人口拡大などを達成できると考えているのか

イ モデル地区における民間施設は、イオングループを主体とする施設のみとなるが、地域未来投資促進法を活用し、市街化調整区域に整備することは適切と考えているのか、また、第7次秋田市総合都市計画や秋田市立地適正化計画など、関連する個別計画との整合性は取れるのか

ウ 卸売市場再整備基本計画において、余剰地に新スタジアム整備を想定し、その賃貸借による歳入を市の財政負担や市場内事業者の使用料の負担の軽減に充てるとしていた方針と整合性が取れないと考えるが、そのことについて、どのように考えているのか

2 公共施設の管理について

(1) 市民の生活に密着した道路、橋梁、トンネル及び上下水道の更新・修繕等の計画について、現時点における進捗状況はどうか

(2) 公共施設のマネジメントにおいて、デジタルデータを用いた管理手法やシステムを導入し、より効率的で適正な維持管理を進めていく考えはないか

(3) AIを用いた水道管路劣化診断システムを導入し、より正確で効率的な劣化診断を行うことにより、適正な設備更新計画の立案とメンテナンス管理体制の構築を推進してはどうか

3 災害に備えたまちづくりについて

- (1) 家屋被害調査において、損害保険会社や土地家屋調査士会等と協定を締結し、より迅速な調査を行うことにより、早期の罹災証明書の発行や支援金等の給付に結びつけ、被災者の早期生活再建につなげる考えはないか
- (2) 令和5年の豪雨で被災した避難所となっている公共施設の指定を見直す考えはないか
- (3) 日本海沿岸及び雄物川河川敷に面して設置されている風力発電設備を活用した防災無線を整備する考えはないか
- (4) 秋田市津波避難計画における避難困難地域に津波避難タワーを設置する考えはないか

4 熊対策及び森林環境譲与税の活用について

- (1) 里山や市街地に熊が出没した際の発見者への通報要請は徹底されているのか、また、通報を受けた際の警察や行政の初動体制及び住民への注意喚起等を含めた対応マニュアルはどうなっているのか
- (2) 市街地において、熊の目撃情報があった際の住民への周知や周辺施設との情報共有等について、警察、行政、教育機関などの連携体制と役割分担はどうなっているのか
- (3) ツキノワグマ等情報マップシステムのタイムラグを解消するよう、県に働きかけるべきと考えるがどうか
- (4) 本市でも、市街地に出没した熊を想定し、県、警察、猟友会などと合同訓練を実施するとともに、対応する市職員にヘルメットや防護服等を着用させるべきではないか
- (5) 熊の調査や駆除に対応する市職員へ特殊勤務手当を支給すべきではないか
- (6) 本市に在住する猟友会の会員数はどうか、また、熊等の駆除に対応できる協力体制は構築されているのか、さらに、狩猟に係る費用へのさらなる支援を実施すべきではないか
- (7) 本市における緩衝帯整備の実績と今後の予定はどうか
- (8) 森林環境譲与税の年度別譲与額及び活用実績はどうか、また、森林

環境譲与税基金の残高は幾らか

- (9) 森林環境譲与税を活用し、森林及び里山の整備を一体的に促進し、林業振興を図りながら、熊と人とのすみ分けを図る取組を進めるべきではないか

5 斎場の管理運営について

- (1) 指定管理者制度を導入すべきではないと考えるがどうか
- (2) 完全民営化する考えはあるのか、また、完全民営化した際には、現在、市民であれば無料となっている使用料が有料となる可能性が高いことについて、どのように考えているのか

6 市職員の処遇改善等について

- (1) 県職員及び民間従業員との給与格差に係る現状認識と格差是正に向けた本市の考え方について
- ア 市職員の給与が、県職員及び県内民間従業員の給与より低い水準で推移しているが、人事委員会勧告制度の趣旨に沿って引き上げる考えはないか
- (2) 現業職員の採用について
- ア 慢性的な人員不足を補うため、現業職員を早急に採用すべきではないか
- (3) 職務経験者の職歴換算について
- ア 職務経験者の初任給算定に用いる経験年数の換算について、労使交渉により決定する考えはないか、また、職務経験者から、経験年数の換算について説明を求められた際には、当該職員に対して、明確に説明すべきと考えるがどうか
- (4) 会計年度任用職員の家族看護等休暇の有給化について
- ア 会計年度任用職員の家族看護等休暇について、同職員の処遇改善に向けて、有給化してはどうか

7 利便性の高い公共交通網の整備について

- (1) J R 新屋駅の利便性を高めるため、同駅の東側に老朽化した西部体育館、大森山老人と子どもの家及び日新児童館の機能を集約した施設を整備することとした上で、J R 東日本に対し、東側改札口の設置を働きかけていく考えはないか
- (2) J R 奥羽本線の帝石踏切付近に外旭川地区のまちづくりにおけるモデル地区に近接した新駅を設置するよう、J R 東日本をはじめとした関係機関に働きかけていく考えはないか

1 外旭川地区のまちづくりについて

- (1) 地域未来投資促進法に基づく基本計画について、国への7月の申請もかなわず、10月の申請に向けた具体的な動きも見えないようであるが、現在、県とどのような項目について調整を行っているのか、また、県からの指摘に対する本市の対応はどうか
- (2) 地域力創造アドバイザーとは具体的に何について協議を行い、どのような成果を得ようとしているのか
- (3) 市長は、同地区のまちづくりよりも新スタジアムの整備を優先的に考えていきたいとしているが、同地区のまちづくりについては、今年度どこまで進めようと考えているのか
- (4) イオンタウン株式会社が事業パートナーから撤退するとした場合、同地区のまちづくりについては、ほかに新たな事業パートナーを公募するのか、それとも事業そのものを廃止するのか

2 新スタジアム整備について

- (1) 6月定例会では、新スタジアムの建設候補地として八橋運動公園も選択肢の一つとして検討する旨を答弁し、閉会直後のぶら下がり取材では八橋が有力と発言しているが、会期中に八橋が有力と答弁しなかった理由は何か
- (2) 新スタジアムの建設候補地は八橋運動公園内に決定したとの認識でよいのか
- (3) 新スタジアム整備の事業主体等について
 - ア 新スタジアム整備等に関して、公設公営と民設民営それぞれの事業主体におけるイニシャルコスト及びランニングコストの負担を含めたメリット・デメリットについてどう考えているのか
 - イ 公設公営で八橋運動公園内に整備するとした場合、ランニングコストの負担を軽くするため、新スタジアムの多機能化や複合化を実現し、利用率の向上と収入増を図るべきと思うがどうか

(4) Jリーグのクラブライセンス事務局は記者会見において、「来季のJ1クラブライセンスが不交付となった場合は、J2もしくはJ3ライセンスが交付される形が想定される」との見解を示したが、現在の特例措置が取り消され、J1ライセンスが不交付となった場合、市長は新スタジアム整備にどのように取り組んでいくのか

3 人口減少対策について

(1) 人口減少を課題としてではなく、新しい社会を構築するための礎とする考えがあるが本市の認識はどうか、また、今後どのような考えのもと人口減少に向き合い、どのような施策を進めていくのか

4 災害対応について

(1) 水害発生時の対応について

ア 豪雨時の道路冠水などの被害状況を集約し、市民に対して迅速に情報提供すべきと思うがどうか、また、情報提供の方法としてどのようなものが考えられるのか

イ 昨年の豪雨災害を受け、道路冠水によりたどり着けない避難所は避難先としてふさわしくないことから、地域内において別の避難所を検討すべきではないか

(2) 災害時における共助の推進について

ア 昨年の水害時には、被害に遭った地域住民に対し、町内会でボランティアを組織して救済に当たるという共助の姿勢が見られた町内もあったことから、これを契機として災害発生時及び収束後の共助について一層推進していくべきと思うが、どのように取り組んでいくのか

5 市有施設の維持管理について

(1) 計画保全による市有施設の長寿命化の進捗状況と、ここ数年の具体的事例はどうか、また、今後、大規模な計画保全の実施はあるのか

(2) 市有施設の維持管理に要する費用は増え続ける一方で、公共施設の

総量削減に向けた取組に何ら動きは見られず、ランニングコストが財政圧迫の一因となっているが、今後、総量削減にどう取り組んでいくのか

(3) 厳しい財政状況にあっても、市有施設の利用者の安全確保の観点から老朽化した施設の設備等の更新は急務であるとするが、今後、どのように対応していくのか

(4) 市有施設の修繕について

ア 和式トイレの設置状況を調査し、計画的に洋式化を進めるべきではないか

イ 駐車場の白線の状況を調査し、白線が消えかかっている駐車場については、事故防止の観点から早急に引き直すべきではないか

6 こども誰でも通園制度について

(1) 令和8年度からの本格実施に向けて、秋田県内では現在、湯沢市が試験的に実施しているが、本市として、同制度の実施に向けた課題とその対応はどうか、また、本市としても来年度から試験的に実施する考えはないか

7 難聴者のための軟骨伝導イヤホンの導入について

(1) 難聴者への対応として、市役所の窓口に軟骨伝導イヤホンを設置する考えはないか

8 介護保険制度改正について

(1) 同制度改正に伴い、利用者負担については、どのような影響が生じるのか

(2) 同制度改正に伴い、介護職員の処遇はどう改善されていくのか

(3) 市として介護職員の人材確保にどのように取り組んでいくのか

9 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の重症化予防について

(1) 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の症状や予防方法などを広報あきた

やLINEを活用して広く市民に啓発し、重症化予防につなげていく
考えはないか

10 千秋公園のお堀の環境整備について

- (1) ヨシやマコモの除去等、ハスの景観を損なわないバランスの取れた植生配置の検討状況はどうか
- (2) 遊歩道ができた今、ヨシやマコモに加え、防草シートのありようは景観を損ねる状態にあると思うが、対応をどのように考えているのか

11 小・中学校におけるいじめについて

- (1) いじめた児童生徒への指導は、誰がどのように行っているのか、また、いじめられた児童生徒は、全員学習支援を受けられているのか

1 外旭川地区まちづくりについて

- (1) 外旭川地区まちづくりの実現に向けた市長の覚悟はどうか
- (2) 新スタジアムを市場余剰地以外に整備する場合、同まちづくりはどのように進めていくのか
- (3) 同まちづくりがきっかけとなり、外旭川地区は様々な場面で批評の対象となっているが、同地区の住民に対する市長の思いはどうか
- (4) 同まちづくりの内容について、市民の理解を深めるため、より丁寧に詳しい説明をしていくべきではないか
- (5) 子育て環境の充実を目的としたエリアを整備し、同まちづくりの核としてはどうか

2 卸売市場と市場内事業者について

- (1) 卸売市場と市場内事業者が共存共栄を図るための将来ビジョンを共に考え、サポートしていく必要があると思うがどうか
- (2) 公設市場として安定供給を維持していくため、異常気象や自然災害などに対する危機管理を念頭に置いた整備を進めていく必要があると思うがどうか

3 移住支援について

- (1) 移住補助事業について
 - ア 同事業は移住のきっかけになり得ることから、県外へ転出した方だけではなく、その家族や友人などにも認識してもらえるよう、より広く制度を周知すべきではないか
 - イ 同事業の申請件数について、目標と実績はどうか、また、同事業の成果について、どのように評価しているのか
- (2) 移住と就職は切り離せない事項であることから、関連部局が一体となって支援等に取り組むことが肝心と思うがどうか

4 「「あそぶ」を本気で考える」について

- (1) 若者たちがデートを楽しみながら、子育て世代が遊ぶ姿を目にして未来の家庭や育児に対して夢を持つことができるようなテーマパークを整備してはどうか

5 市道秋操東自歩道線について

- (1) 当該道路には、衛生面や防犯上などの課題があることから、整備を行う必要があるのではないか
- (2) 当該道路について、公共空間の活用という観点から、街なみ環境整備事業の一つとして整備してはどうか

1 市長の政治姿勢について

- (1) 来年の土崎空襲被爆80年に向けて、平和に対する市の姿勢を示すために、平和へのメッセージを発信する市民団体を支援してはどうか
- (2) 非核平和都市宣言をしており、日本最後の空襲があった本市も、広島市長や長崎市長のように、国に対して「核兵器禁止条約」への参加を求めるべきではないか

2 「秋田市笑顔あふれるこどものまち宣言」が、宣言だけで終わらないために

- (1) 本市も学校給食費無償化を決断すべきではないか
- (2) 本市も県内他市町村のように、子どもの医療費を完全無料にすべきではないか
- (3) 国民健康保険税における子どもの均等割を無料にすべきではないか

3 外旭川地区のまちづくりについて

- (1) 卸売市場の再整備で生じる余剰地の活用方法について、確実に市場内事業者の負担軽減につながる歳入を確保できるよう、方策を考えるべきではないか
- (2) 新スタジアムの整備費用の一部を市が負担することについて、市民の理解をどのように得ようとしているのか
- (3) 外旭川地区まちづくり基本計画は、白紙に戻すべきではないか

4 市民生活を守るために

(1) 公共交通について

- ア 市民がどこに住んでいても、通院や通学、買物ができるような公共交通体制を構築することは、交通権という人権の問題であるが、市としてその保障ができていると考えているのか
- イ バス路線維持や運転士確保のため、財政支援を拡充すべきではないか

いか

ウ 鶴岡市の庄内交通株式会社が行っている、バスを小型化して路線や便数を増やす「逆転の発想」の取組について、秋田中央交通株式会社に対して提案する考えはないか

エ 日常生活を楽しむ手段としての公共交通の在り方を提案し、市民が利用できる機会を増やしてはどうか

(2) 除排雪について

ア 令和5年度からの道路除排雪の取組について、早期の除雪は効果があったとされる一方で、これまでどおり排雪と一体にしてほしいとの市民の声にどう応えるのか

イ 除排雪関係経費について、当初予算を増額してはどうか、また、除排雪を目的とした基金を創設し、不用額が生じた場合は、基金に積み立ててはどうか

(3) 家庭ごみ処理手数料の負担軽減について

ア ゼロカーボンシティを宣言した市として、プラスチックごみの発生抑制への意識や行動をどう高めていくのか

イ プラスチック資源循環促進法の施行を受け、今後、プラスチック使用製品廃棄物の分別をどのように進めていくのか、また、当該分別による家庭ごみの減量が、ごみ処理手数料の負担軽減につながるという認識に変わりはないか

ウ プラスチック使用製品廃棄物の分別に併せ、家庭ごみ処理手数料を半額にするなどの見直しを考えてはどうか

5 子どもたちの笑顔あふれる学校教育のために

(1) 子どもも教職員も心身ともに健康で学習に集中できる環境について

ア 学校環境衛生基準や労働安全衛生法に則した環境にするためにも、理科室などの特別教室、給食調理室、調理員の休憩室にエアコンを設置すべきではないか

イ 教員1人当たりの受持ち授業時数の上限を設定し、1日1時間以上の空き時間を確保してはどうか

(2) 子どもたちの豊かな学びを保障する教育について

ア ICT端末は、学習上有効なツールではあるが、授業においては、五感を通して学ぶ体験的な活動や、対話を通して考えを広げる学び合い活動を大切にするという認識に変わりはないか

イ 子どもが過度にデジタルツールを使用した場合、脳や睡眠などに与える悪影響について、どう考え、どのように対策を講じるのか

ウ 本市の児童生徒1人当たりの学校図書購入費は、県内他市町村や東北地方の中核市の中でも低い水準にとどまっているが、豊かな教育実現のために、増額してはどうか

(3) 「明日も学校あるといいな」と子どもたちが思える学校づくりのために、子どもの実情を踏まえた創意工夫あふれる教育実践を保障すべきではないか

6 依存症問題の当事者や家族に寄り添った支援のために

(1) アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症問題に苦しむ当事者やその家族を支援するために、本市として考えていることは何か

(2) 依存症問題の当事者や、家族が利用できる相談窓口や居場所をつくるため、依存症の当事者等を支援できる地域活動支援センターを市として設置してはどうか

7 内部公益通報制度について

(1) 本市の内部公益通報制度は、通報者の秘密が保持され、不利益な扱いを受けることがないようになっているのか

(2) 本市も他の自治体のように、ホームページに外部窓口の連絡先や相談方法などを掲載し、より利用しやすい体制にしてはどうか

8 本市沿岸の松枯れ対策について

(1) 急速な松枯れの原因を、市としてどのように分析しているのか

(2) 松林の減少によって想定される、浜風や砂による農業被害や道路、住宅への被害について、どのように考えているのか

(3) 失われつつある防砂林の役割を維持できるよう、対策を講じていくべきではないか

1 新スタジアムに関連する諸問題について

- (1) さきの6月市議会閉会直後及び今回の9月市議会開会直前の記者会見、さらには、今議会初日の市長説明における一連の発言の意図は何か、また、議会に対して「丁寧な説明を尽くす」との言に背いてはいないか
- (2) 新スタジアムの事業主体を公設へとかじを切るとは、リスクが大き過ぎるのではないか、また、何らかのリスクヘッジ策はあるのか
- (3) 「市場余剰地の賃貸料」と「市場内事業者の施設利用料」に関するスキームを見直す必要はないか、また、市場余剰地の利用者について、その見込みはどうか

2 水害対策について

- (1) 「雄物川下流圏域水災害対策プロジェクト」に掲げられた項目について、その進捗状況はどのようになっているのか
- (2) 内水氾濫被害による店舗等の休業を予防するための止水板設置について、何らかの公的支援は考えられないものか
- (3) 町内会での側溝清掃など、市の内水氾濫対策を補完する環境整備等について、市民に相応の協力を求めることも必要ではないか

3 再生可能エネルギー関連産業の振興策について

- (1) 地元産の再生可能エネルギーに関連する産業振興策は、どのようなものを描いているのか、また、次世代の基幹産業への長期ビジョンはどうか

4 スタートアップ等の支援について

- (1) スタートアップ支援事業の対象となりそうな新規事業の種はあるのか、また、洋上風力発電との相乗効果を見込める国家プロジェクト等に付随するニュービジネスの開発に注力すべきではないか

5 庁内執務環境の再生について

- (1) 庁内の執務環境を整えるとともに、改めて人心の一新を行うべき時に来ているのではないか

6 市立小中学校 P T A の在り方について

- (1) P T A は任意団体とはいえ、その在り方について、教育委員会等は何らかの方向性を示すべきではないか

1 観光行政について

- (1) 台湾・台南市との交流について、今後どのような形で継続していくのか
- (2) インバウンドの受入れ環境を向上させるためのよりよい環境整備について、海外の提携都市の意見を聞く機会を設けてはどうか
- (3) あきた芸術劇場ミルハスの開館後、コンベンション等の開催が増えたが、その効果と課題は何か
- (4) 一度に集客する場合、宿泊施設が足りないという声が聞かれるが、その対策について、どのように考えているのか
- (5) 宿泊税導入の検討に当たって、観光振興施策に要する費用に充てることを目的としているが、当該財源の活用の具体をどのように想定しているのか

2 災害時の連携協定について

- (1) 昨年のも雨災害の経験を踏まえ、災害時において迅速な災害対応を行える体制を構築するため、民間団体等と災害時の連携協定を広く結ぶべきではないか
- (2) 水害時の罹災証明書の発行について、損害保険会社と協定を締結し、本市への損害調査情報の提供や申請手続の支援を通じて、速やかな発行につなげてはどうか

3 賃金の引上げに向けた取組等について

- (1) 本県の令和6年度最低賃金改定額が全国最下位となったことに対する評価や課題等について、どう捉えているのか
- (2) 本市の中小企業における人材確保や賃上げに対する支援について、どのように考えているのか
- (3) 本市における保育士等の処遇の実態はどうか、また、最低賃金額で雇用されている実態もあると聞くが、処遇改善に係る今後の支援方針

はどうか

4 食肉衛生検査等について

- (1) 屠畜場で処理される獣畜の衛生管理や加工処理等への対応状況はどうか
- (2) 屠畜検査業務に携わる獣医師の確保及び負担軽減のため、補助員の導入やI o Tの活用など、業務の効率化について検討しているのか
- (3) 食肉衛生検査所における施設や設備の老朽化に伴う更新について、現在どのように検討しているのか

5 市街地における課題と公園の活用等について

- (1) コンパクトシティの推進や居住地域の集約化などを背景に、近年、従来1区画であった土地に2軒の住宅が建築される例が見受けられるが、世帯数の増に伴う地域の公園不足や除排雪などの課題をどう捉えているのか
- (2) 街区公園については、秋田市立地適正化計画と整合を図りながら公園緑地の在り方を再検討し、子どもの遊び場や地域交流、防災減災、堆雪場など、地域の課題やニーズに応じて、その目的を見直すべきではないか
- (3) 千秋公園をはじめとする総合公園のほか、街区公園等の所管について、各公園の実態に即した課所室が所管することにより、より効果的な公園の活用につなげてはどうか
- (4) 景観行政団体として、千秋公園大手門の堀遊歩道からの景観を保全するために景観形成基準を設定してはどうか
- (5) 千秋公園大手門の堀遊歩道を蓮の観賞以外にも楽しめる工夫はしていくのか

6 学校の統合等について

- (1) 学校統合において、小中併設校を整備しようとしているが、その意義をどう捉えているのか、また、成長段階の違う児童生徒それぞれに

- 必要となる学習活動スペースを確保することはできるのか、さらに、
今後も小・中学校の併設による統合や改築の検討をしていくのか
- (2) 学校改築に当たっては、学校近隣の土地の購入や交換など柔軟に対応し、学校環境を十分に整えるよう努めるべきではないか

7 上下水道事業について

- (1) 仁井田浄水場の更新に当たって、頻発化する災害への対応や昨今報道されている水道水中の化学物質などへの対応方針はどうか
- (2) 合流式下水道が整備されている区域から、雨天時に放流される未処理下水の汚濁負荷量はどれくらいか、また、未処理下水放流の実態はどうか
- (3) 水害時における未処理下水放流の環境への影響をどう捉えているのか
- (4) 浸水対策下水道事業については、入札の不調などにより、計画どおりに進んでいないことから、執行状況等の報告の機会を設けるべきではないか

1 外旭川地区のまちづくり等について

(1) 外旭川地区をはじめとした北部地域のまちづくり計画について

ア 現在の外旭川地区のまちづくり計画を一旦白紙に戻すべきと考えるがどうか

イ 秋田港を中心とした臨海地区の振興策を再検討すべきではないか

(2) スタジアムの整備について

ア ブラウブリッツ秋田の経営体質を市としてどのように捉えているのか

イ 現在の整備計画において想定事業費が試算されているが、赤字分は運営会社の責任において検討されるべきと考えるがどうか

ウ 再び八橋運動公園内を選択肢の一つに加えた理由は何か、また、当初、八橋を不適であると判断したが、その時点から何がどのように変わったのか

(3) 活力と魅力ある県都秋田市のまちづくりに向けて、もっと県と連携すべきと考えるがどうか

2 生活保護費の障害者加算認定誤りによる返還等について

(1) 本件は市に責任があると認めているが、それに対して具体的にどのような対応を行ったのか

(2) 生活保護法第63条を返還の根拠としているが、この条文の条件となっている対象者には資力があると認定したのか

(3) そもそも生活保護受給者の生活の実情をどのように受け止めているのか

(4) ケースワーカーの説明を受けてもなお不安が解消されない対象者に対して、今後どのように対応するのか

(5) 千葉県印西市において、同様の返還を一部求めないと再決定したことについて、どのように受け止めているのか、また、今回の返還金が自立を阻害しているかどうかの再検討は行わないのか

3 市立中学校における個人情報の不適切な取扱いについて

- (1) 今回の問題を教育委員会としてどのように受け止めたのか
- (2) 生徒の個人評価を複数の教員によって検証する体制はつukれないのか
- (3) 教員のデジタルリテラシーを今後どのように高めていくのか
- (4) 教職員を含めた教育現場における人権意識のさらなる醸成をどのように進めるのか

4 市立小・中学校の特別教室の暑さ対策について

- (1) 学校設置者として、現在の特別教室の環境をどのように認識しているのか
- (2) 努力義務とはいえ、現時点で基準を満たしていないものがあるが、改善のために具体的に準備していることは何か

5 今冬の除排雪の基本方針について

- (1) 昨冬に引き続き、路面積雪深が10センチメートルとなった際は、全市一斉除雪を行うのか
- (2) 将来的には、地域、ブロック単位で除雪判断ができるようにしていくということであるが、現時点でどのような準備がされているのか、また、その際は、除排雪業者との契約はどのように変化するのか